

# カボチャの栽培法

2011/10/10

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店

※一部又は全部の引用を禁止いたします

## タネまき

カボチャは比較的低温には強い方で、苗作りにはやや低温でガッチリした苗を育てる。発芽までは床温度を25～30℃とし、発芽後は20℃位が適当である。本葉が出始めの頃育苗ポットに移植し、本葉が4～5枚頃が植えつけとなる。発芽後30日位の日数を目途とする。

## 植えつけ

地温が14～15℃以上になって定植するが、根鉢をくずさないように浅植えとする。適湿を保って活着と根の発育を促す。植えつけ時苗の芯止めをして植えるとよい。株間は50～60cmとする。

## 施肥

元肥には成分量で1aあたり窒素、リン酸、カリ共に1.5kg位を基準とするが、吸肥力が強い方であるので、控え目がよい。

## ツル仕立てと着果

1株あたり3本のツル(子ヅル)を出し、各ツルに1果を着果させる。着果位置は子ヅルの7～8節位がよい。め花のつく7～8節までの側枝は小さいうちに摘除すればよい。

## 収穫

開花後30～35日位が収穫の目安であるが、天候状態で若干のびることもある。完熟果の収穫がおいしいカボチャ作りのポイントである。品種によるが、1週間～半月程度追熟させると水分が飛び、澱粉が糖化しうま味が増す。

